

自閉症児者の母親と同居の祖父母の良好な関係を築く 要因に関する研究

(中間報告)

富山大学 水内豊和

Factors about how to establish the good relationship between mother and grandparent who have children with Autistic Spectrum Disorder

University of Toyama, MIZUUCHI, Toyokazu

要約

母親と祖父母との関係は双方が影響しあって築いていくものであると考えられる。一方で、子どもが自閉症児であるケースにおいて、これまでの研究では、母親と祖父母との関係についての研究は見られるが、それらは、母親のみ祖父母のみといった片方のみに対するものであり、母親、祖父母というペアに対して行われたものは見当たらない。また、母親と祖父母との関係について、それぞれにストレスや悩みを抱えているというようなネガティブ面を指摘するものは多数あるものの、良好な関係を築くためには何が必要なのかという点については検討されていない。このようなことから、本研究では、「比較的良好な関係」を操作的に定義し、その条件に見合った自閉症児者の母親とその同居の父方祖父母を対象としたインタビューを通して、比較的良好な関係を築くための要因について検討することを目的とする。

【キー・ワード】 自閉症スペクトラム障害, 祖父母, 母親, 良好な関係

Abstract

The relationship between mother and grandparent is established by their own effort to make a good atmosphere. In the case of children with Autistic Spectrum Disorder (ASD), there are few study about the relationship between mother and grandparent, but focus on only one side (mother or grandparent), and almost study deal with negative aspects like a stress and anxiety. There are nothing to attention to the factors about how to establish the good relationship between mother and grandparent who have children with ASD. This study examines to the successful factors through the interview about how to establish a good relationship for mother-grandparent pairs. The records of words were analyzed by using Modified Grounded Theory Approach (M-GTA).

【Key words】 Autistic Spectrum Disorder (ASD), grandparent, mother, good relationship

問題と目的

一般的に、母親は子育ての相談相手、情報源として自分の父母（母方父母）をあげる者が多く、それができている母親の子育てにおける不安は低いことから、祖父母の孫とのかかわり方や適度な育児への参加は、母親の不安を低くするという（八重樫ら、2003）。このように、子育てにおける祖父母は母親にとって有意義な存在になりうる。一方、障害児の家族について目を向けてみると、丸山（2013）は、母親の就労と祖父母による援助について調査し、障害児の母親の就労は祖父母の援助によって支えられているとしている。また、聴覚障害児の祖父母は障害のある孫とかかわる中で得られた学びを認識し、より孫に対する愛情が深くなること、そして祖父母は孫を通して新しい出会いや、経験、学びにつながり祖父母自身の生活や人生を肯定的に受け止め充実感を得ることができるとの報告もある（今野、2003：2011）。このように、障害児の母親にとって祖父母は重要な機能をもつと考えることができ、また祖父母にとっても孫とかかわることで生活の質の向上にもつながると考えられる。

一方で、障害児を育てていく中で母親と祖父母の間に葛藤が生じることも少なくない。今野（1998）は、同居の父方祖母に対する母親の意識を調べ、障害児の母親は健常児の母親と比べると同居の父方祖母に対して、祖父母は子どもに甘すぎる、厳しすぎるなど、子どもとのかかわり方や自分と祖母との関係に対して不満をもっているとした。また今野（2009）は、全国の発達障害者支援センターに質問紙調査を行い、祖父母から相談を受けている発達障害者支援センターは半数を超え、相談内容としては自分（祖父母）と孫の親との関係についてという内容が少なくないこと、母親からの祖父母についての相談も半数の発達障害者支援センターが受けていることを報告している。これらのことから、母親、祖父母の両者が障害児の養育に絡んでお互いのことで悩んでおり、関係を築くことの難しさが推察される。

日本における3世代同居世帯数は減少しつつあるが、3世代同居のうち父方祖父母との同居の方が母方祖父母との同居に比べ多い（平成17年国勢調査）。一般に祖父母と同居する母親は核家族の母親よりも家族の中で役割を果たすことに関してストレスを多く抱えている（赤平、2002）。これらのことは、障害児の母親にも当てはまるのではないかと考える。松岡ら（2002）は、子どもの障害を「母親のせい」といわれた経験がある母親は抑うつ得点が高いと明らかにし、母親に対して「母親のせい」といった対象でもっとも多かったものが夫の親（父方祖父母）であることを報告している。また、障害の種類による着目でも、その他の障害種と比べて自閉症児の親のストレスが比較的高いと報告されている（稲波ら、1994）。さらに、徳田ら（2002）は障害児の母親に祖父母との関係での悩みを調査し、自閉症児の母親の半数は祖父母が孫の状態を理解していないと答え、このことは、自閉症の障害特性が理解しにくいことと関連していると指摘している。

母親と祖父母との関係は双方が影響しあって築いていくものであると考えられる。一方でこれまでの研究では、母親と祖父母との関係についての研究は見られるが、それらは母親のみ祖父母のみといった片方のみに対するものであり、母親、祖父母というペアに対して行われたものは見当たらない。また母親と祖父母との関係について、良好な関係を築くためには何が必要なのかを検討することは先行研究での課題とされている。このようなことから、本研究では、自閉症児・者の母親とその同居の

父方祖父母が比較的良好な関係を築くための要因について、母親、祖父母のペアに対してそれぞれインタビューをすることを通して検討することを目的とする。なお、今回は母親との交流頻度が最も多い父方祖母に限定し研究を行うものとする。

方法

1) インタビューの対象

北陸地区の発達障害者親の会に所属する自閉症者の母親と同居の父方祖母とし、「比較的良好な関係」を操作的に定義した以下の条件を満たしたペア数組とする。

- ① 家族間の適当な意思疎通がある
- ② 3世代同居への肯定的な意識がある
- ③ 障害がある孫への肯定的な意識がある
- ④ 障害児・者に関しトラブルがない/乗り越えた
- ⑤ 母親、祖母との関係は悪くはないと感じている

これらの項目は傍証として家族機能測定尺度(草田ら, 1993), 3世代同居意識尺度(水上ら, 2009), 孫—祖父母関係尺度(田畑ら, 1996)を測定し、健常群の平均得点と同等あるいはそれ以上を示すものとする。

2) インタビューの内容

今野(1998)、徳田ら(2002)の研究を参考に、(1) 障害の知識・理解、(2) トラブルについて、(3) 祖母・母親の存在について、(4) 相談相手について、(5) 祖母・母親とのかかわりについて、(6) 母親・祖母自身について、とした。

3) インタビューの手続きと倫理的配慮

母親・祖母を別の時間、場所において半構造化インタビューを実施した。分析に使用するデータは対象者に同意書に記名を求めた上で、ICレコーダーで録音し書き起こしたものとし、インタビューの記録は厳重に管理した。得られた結果は両者に知らせないことも同意を得た。

4) データの分析

インタビューで得られた逐語録をもとに修正版グラウンデッドセオリー法(M-GTA)を用いて分析を行った。母親と祖母の良好な関係がどのような過程で成り立ち、どのような要因が影響を与えているかを明らかにすることを分析の目的として設定した。

結果(分析中)

現在、インタビューを行い、逐語録を作成し、また M-GTA を用いて分析しているところである。

以下にエピソードの分析過程で作成するワークシートの記述の一例を示す。

表 1 分析ワークシート（一部抜粋）

概念名	子どもは幸せであるという思い（概念3）
定義	他の障害のある子や他の孫と比べて幸せだと思う
具体例	わたしもうちの嫁さん、あのN支援学校、毎年運動会連れてもらった。うん。毎年、連れてかっしやったよ。私本当3年間行ってきたよ。あの卒業式にも行ってきた。だから、うちの嫁さん本当母娘みたい。本当に。それは感謝する。普通のあの嫁さんやったら連れてかんにゃ。高校になったら運動会なんか連れてかん。それをKの支援学校連れてかっしやった。だから、いろんな子どもあれから見たらWくんにか幸せやなと思ってきた。やっぱいろんな子おるからね。運動会本当行ってきた。3年間、5月に。支援学校春やったと思う。5月、田植え終わってから。行ってきたよ。3年間も続けていったよ。そのかわりあっこ行ったら「えー」って言われんよと。いろんな子おるからね。あいうがみたら、Wくんまだこういうがで幸せやなと思った。いろんな子おるわ支援学校。いっちょまえの子はびっくりじゃないん。でも、勉強さ私もこうやって出してもらうから勉強できるん。ね。ありがとうございました。（A氏祖母18）
理論的メモ	他の障害のある子を実際に見て知って孫は幸せだと感じる。→障害の程度によってもかわってくるのかも？ 家族から可愛がられる孫は幸せだと感じる。

今後の展開

すべてのインタビューが終了し、それを元にした逐語録を作成するのと並行して M-GTA による分析を進め、最終的に、エピソードから概念とサブカテゴリー、そして最上位に位置するカテゴリーの生成を進める。その上で、母親と祖父母とが比較的良好な関係を築くための要因についての仮説を示す結果図を作成し、考察を行う。

引用文献

- 赤平理沙・大島巖（2002）三世代同居と母子の心理的ストレスの関連についての基礎的調査．こころの健康，17(1)，57-65.
- 稲波正充・小椋 たみ子・CatherineRodgers・西信高（1994）障害児を育てる親のストレスについて．特殊教育学研究，32(2)，11-21.
- 今野和夫（1998）障害者の祖父母についての研究-同居の父方祖母に対する母親の意識を中心に-．秋田大学教育学部研究紀要教育科学部門，53，45-53.
- 今野和夫（2003）通園施設における障害のある子どもの祖父母に対する支援．秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要，25，39-52.
- 今野和夫（2009）発達障害者支援センターにおける祖父母支援-センターへの質問紙調査を通して-．秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要，31，61-74.
- 今野和夫（2011）障害児の祖父母に対する支援についての展望．秋田大学教育学部研究紀要教育科学部門，66，45-54.
- 丸山啓史（2013）障害児の母親の就労と祖父母による援助．京都教育大学紀要，122，87-100.
- 松岡治子・竹内一夫・竹内政夫（2002）障害児をもつ母親のソーシャルサポートと抑うつとの関連について．女性心身医学，7(1)，46-54.
- 徳田克己・水野智美（2002）障害のある子どもを持つ母親と祖父母との関係-障害児を持つ母親を対象にした質問紙調査を中心に-．アジア障害社会学研究，2，1-8.

八重樫牧子・江草安彦・李是喜・小河孝則・渡邊貴子（2003）祖父母の子育て参加が母親の子育てに与える影響. 川崎医療福祉学会誌, 13(2), 233-245.

